



研修生・修了生の展覧会情報や
新世紀工芸館の様々なイベント
をチェック！

修了生の声



第 6 期
陶芸コース修了生
増原 嘉央理 さん

1985 年 北海道 出身
2004 年 英国留学
2008 年 武蔵野美術大学 造形学部 工芸工業デザイン学科 陶磁専攻 卒業
2010 年 瀬戸市新世紀工芸館 陶芸コース 修了
現在 (公社)日本工芸会 正会員・日本陶芸美術協会 会員

2008 年 「平成 19 年度 武蔵野美術大学卒業制作」陶磁賞
2009 年 「めし碗グランプリ展」審査員特別賞(同 2012)
2010 年 「第 40 回 ながさき陶磁展」インテリア・工芸部門 最優秀賞
2011 年 「第 21 回 日本陶芸展」入選(同 2015,2017,2019)
2012 年 「そば猪口アート公募展」安曇野市教育委員会賞
「第 5 回 菊地ビエンナーレ展」入選(同 2021)
2014 年 「第 2 回 陶美展」入選(同 2016(2 作品),2017,2018)
2015 年 個展(銀座 黒田陶苑 / 東京)以降毎年開催
2016 年 「第 56 回 東日本伝統工芸展」朝日新聞社賞
「日本陶磁協会現代陶芸奨励賞 北海道展」現代陶芸奨励賞
「伊丹国際クラフト展」審査員賞
「第 63 回 日本伝統工芸展」入選(同 2018,2020)
2017 年 「日本陶磁協会賞受賞作家展」(銀座和光 和光ホール / 東京)
2018 年 「第 58 回 東日本伝統工芸展」入選(同 2020,2021)
2019 年 「第 66 回 日本伝統工芸展」日本工芸会新人賞
「第 7 回 陶美展」高島屋賞
「第 59 回 東日本伝統工芸展」奨励賞
2020 年 「増原嘉央理 高橋奈己・表現の形・展」(瀬戸市新世紀工芸館 / 愛知)
2021 年 「第 12 回 国際陶磁器フェスティバル美濃」陶芸部門 入選
「第 15 回 パラミタ陶芸大賞展」大賞

■ 研修期間はどうか。
得たものは大変多かったです。その中には瀬戸市、新世紀工芸館でなければ得られなかったものもあります。迷いや困難な事があっても周囲の方々やスタッフの皆様のサポートで乗り越える事が出来、作家として作品を発表する様々な機会を与えていただきました。
■ 今どんな制作活動(作家活動)をしていますか。
百貨店やギャラリーにて個展または企画展等で作品を発表させていただいております。
■ 当館での研修を考えている方へ。
カリキュラムを設けていない所が最大の魅力ではありますが、その分、作家として自主性や自己管理が求められる環境だと思います。
ご自身が学びたい事、やりたい事が決まっているのなら最良の環境ではないでしょうか。
新世紀工芸館での研修経験は長い作家人生の中で大きな経験だと思います。



増原嘉央理 高橋奈己・表現の形・展
「増原嘉央理 高橋奈己・表現の形・展」



瀬戸市新世紀工芸館

陶芸・ガラス工芸コース 研修制度案内 2023

Seto Ceramics and Glass art Center

Ceramics / Glass course Training program Information 2023

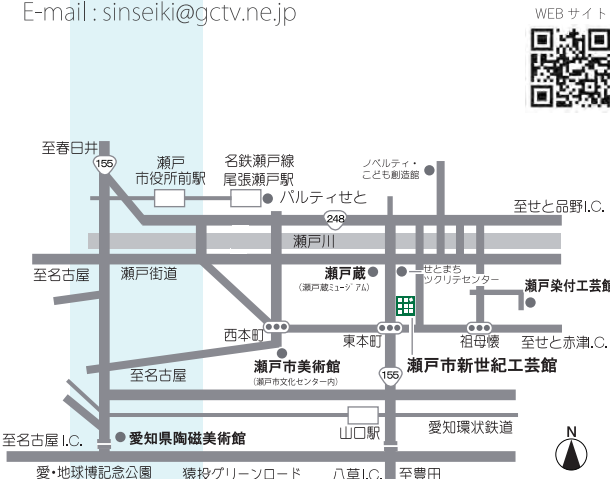
瀬戸市新世紀工芸館 Seto Ceramics and Glass Art Center

◎ 交通アクセス

- 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」から南東へ徒歩約 7 分。
- 東名高速道路「名古屋 I.C.」から車で約 3 0 分。
- 東海環状自動車道「せと赤津 I.C.」から車で約 1 0 分。

◎ 問い合わせ先

〒489-0815 愛知県瀬戸市南仲之切町 8 1 番地の 2
TEL: 0561-97-1001 FAX: 0561-97-1005
URL: <http://www.seto-cul.jp/new-century/>
E-mail: sinseiki@gctv.ne.jp



WEB サイト



■ 研修期間はどうか。
就職活動もせず大学院に行けるほどのなかを見出せなかった私は、卒業後に新天地として瀬戸市新世紀工芸館で 2 年間の研修生活をおくりました。
新世紀工芸館での研修は課題や指導はなく、自主的な制作を支援してくれました。瀬戸窯業高等学校(現 瀬戸工科高等学校)専攻科や他美術系大学を卒業してきた人、ガラスという陶芸とは違った素材を扱う人たちも研修生として距離も近く、ときには作家として第 2 線で活躍されている方がワークショップやレクチャーに特別講師として来てくださいました。
海外からのレジデンス作家が訪れたときには一緒にの空間で制作をし、2 年間で多くの知識と機会と刺激を与えてくれました。
■ 今、どんな制作活動(作家活動)をしていますか。
研修修了後も瀬戸を拠点として活動しています。市内には窯業関係の原料や道具の販売店があり、貸工房も多く、陶芸を続けていく環境が整っています。



第 12 期
陶芸コース修了生
小林 由依 さん

1990 年 愛知県春日井市 出身
2009 年 愛知県立瀬戸窯業高等学校 卒業
2014 年 愛知県立芸術大学 卒業
2016 年 瀬戸市新世紀工芸館 陶芸コース 修了
現在 瀬戸市内にて制作

2015 年 「koba 個展」(窯横カフェ / 愛知)
2019 年 「koba 個展」(Galerie LA CACHETTE/ 愛知)

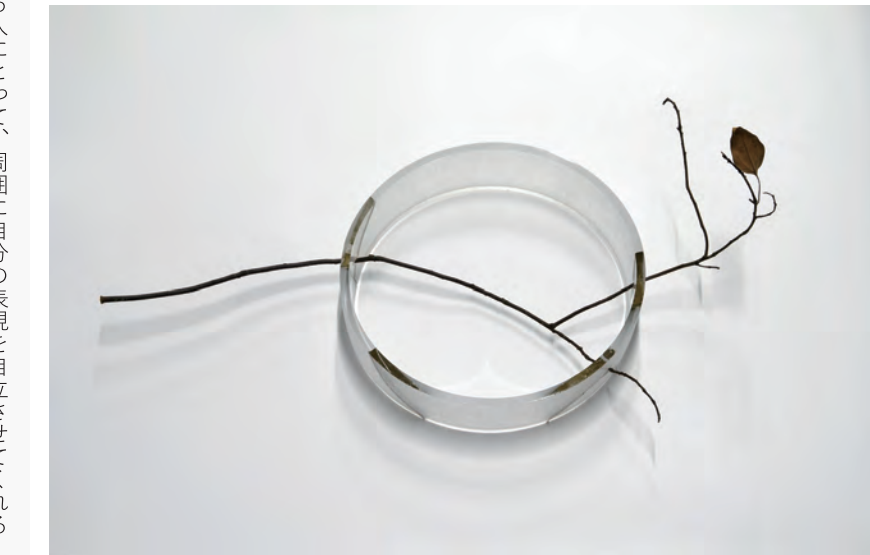


第 10 期
ガラス工芸コース修了生
植村 宏木 さん

1990 年 北海道札幌市 出身
2010 年 秋田公立美術短期大学 工芸美術学科 ガラスコース 卒業
2014 年 瀬戸市新世紀工芸館 ガラス工芸コース 修了
2019 年 名古屋芸術大学 大学院 美術研究科 修了
現在 瀬戸市内にて制作

2018 年 個展「あえかに秘めるものへ」(JR TOWER ART BOX/ 北海道)
「富山ガラス大賞展 2018」(富山市ガラス美術館 / 富山)
2019 年 「春爛漫 ポップ & モダン」(アートフロントギャラリー / 東京)
「collection/selection:10」(GALLERY CAPTION/ 岐阜)
個展「漂石と素糸」(蒲郡市博物館 / 愛知)
2020 年 「線に立つ」(Lights Gallery/ 愛知)

■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
短期大学にてガラスを専攻したのち、美術の造形素材として歴史の浅いガラスを、瀬戸の主軸である陶芸を身近におくことでより広い視野から考えることができるとは考えました。
■ 研修期間はどうか。
研修内容を自ら計画していくため、必要なものを取捨選択し、いかに展示や発表をしていくか、作家としての地力を身につけることができると感じました。
■ 今、どんな制作活動(作家活動)をしていますか。
実験的な試みをする際に、陶芸のノウハウを参考にすることができ、周囲に窯業をはじめとしたものづくりに関わる企業も多く、素材や技術、道具、知識などが幅広く手に入りやすい環境だと感じました。
■ 当館での研修を考えている方へ。
これから作家活動をしていきたいと考えている人にとって、周囲に自分の表現を自立させてくれるための環境が整っていることはありがたいことだと思います。各自で設定した目標に向かって自分何が必要かを考えられ、試すことができる環境ではないでしょうか。作家としての基盤を作るには適している環境だと考えています。



■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
毎日自由に制作に取り組み、ガラスと向き合う時間を十分に得ることができたため、新世紀工芸館を選びました。
■ 研修期間はどうか。
定期的に講師の方の引き、講義や講評をしていただく機会もあるため、自分の作品を冷静に見る事もでき、多くの刺激を得て、また制作に励む、そんな充実した 2 年間で過ごしました。
■ 今、どんな制作活動(作家活動)をしていますか。
自身の工房を立ち上げ、制作をはじめました。発表活動は、国内ギャラリーでの展示や海外のアートフェアにて発表しています。



第 5 期
ガラス工芸コース修了生
藤掛 幸智 さん

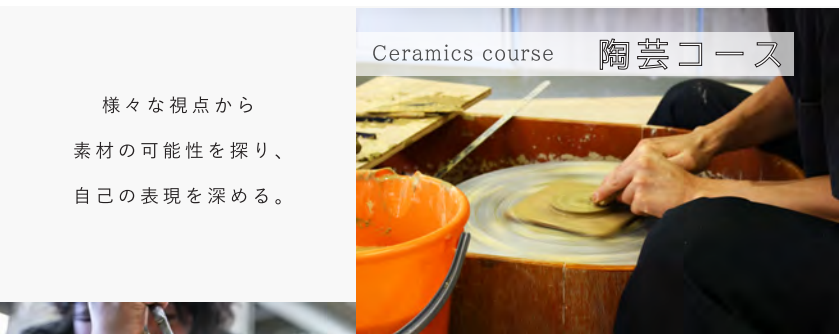
1985 年 愛知県 出身
2005 年 秋田美術工芸短期大学 工芸学科 ガラス工芸専攻 卒業
2006 年 愛知教育大学 教育学部 造形文化コース ガラス専攻 科目等履修生 修了
2009 年 瀬戸市新世紀工芸館 ガラス工芸コース 修了
2011 年 金沢卯辰山工芸工房 研修者 修了
現在 愛知県個人工房にて制作

主な作品収蔵先
ヴィクトリア & アルバート美術館 (イギリス)
レッテガラス美術館 (ドイツ)
Alexander Tutsek Foundation (ドイツ)
コーニングガラス美術館 (アメリカ)
卯辰山工芸工房、黄金崎クリスタルパーク
富山市ガラス美術館 など

瀬戸市新世紀工芸館

日本遺産に登録され日本六古窯のまちとして名を連ねる愛知県瀬戸市は、平安時代後期から続くやきものの産地として周知されてきました。また、瀬戸地域の陶土層には、ガラス工業の原料となる珪砂が豊富に含まれており、明治時代以降は国内有数の産出地として評価されてきました。このように、歴史ある窯業地としての伝統と恵まれた原料を埋蔵する条件が整い、今日でも瀬戸市域には陶磁器を生業とした窯元その他、陶芸・ガラス工芸の作家が精力的に活動する工房や店舗などが数多く存在しています。

こうした制作に適した環境の中、芸術、文化に包括される美術工芸の発展と伝統的な技能や技術を修練すべく人材育成を掲げ、次世代へ引き継ぐ作品を展示し、広く普及活動に繋げ、陶芸・ガラス工芸の振興を図る目的として瀬戸市新世紀工芸館を開館いたしました。



“自由な発想で
創造的なものづくりができる。”

研修制度

陶芸・ガラス工芸の基本的かつ専門的知識や技能・技術を修練するための人材育成事業として研修制度を取り入れています。当館での研修制度は、自由な創造の場として研修生が自らの目標を設定し、年間計画に基づいて2年間の制作活動として続けることができます。

館内には、年間を通して研修生が制作した作品を展示・販売するギャラリーが設けられています。その他に「せともの祭」や「せと陶祖まつり」、各種イベント等への出品販売、そして年度末には当館の展示棟にて研修生修了作品展を開催するなど、作家活動の成果を発表する機会が数多く企画されており支援事業としても充実しています。

また当館では、陶芸・ガラス工芸にかかわる市民向け体験教室を実施しており、研修生はその補助作業を担当し普及啓発事業について学ぶ機会があります。



特別講義

研修制度の一環として、研修生からのアンケートを基に陶芸・ガラス工芸を問わず各分野の作家やアーティスト、学会員やギャラリストなどに依頼し、ワークショップやレクチャー、作品の講評など様々な方法で特別講義を開催しています。



■ 近年の特別講師（順不同、敬称略）

井上 剛（ガラス作家）	高橋 秀治（豊田市美術館館長）
板橋 廣美（陶芸家）	谷口 嘉（ガラス作家）
内田 鋼一（陶芸家）	中田 ナオト（陶芸家）
扇田 克也（ガラス作家）	長江 重和（陶芸家）
加倉井 秀昭（ガラス作家）	拝戸 雅彦（愛知県美術館館長）
加藤 令吉（陶芸家）	早崎 志保（ガラス作家）
唐澤 昌宏（国立工芸館館長）	ピーター・プレマース（ガラス作家）
木曾 志真雄（陶芸家）	松永 泰樹（陶芸家）
城戸 保（写真家）	道川 省三（陶芸家）
小島 久弥（美術家・ギャラリスト）	宮路 雅行（インストラー）
佐々木 雅浩（ガラス作家）	吉川 正道（陶芸家）
佐々木 類（ガラス作家）	和田 奈津美（中国茶インストラクター）
大長 智広（京都国立近代美術館研究員）	

アーティスト・イン・レジデンス

「瀬戸国際セラミック＆ガラスアート交流プログラム」は、国内外の陶芸・ガラス工芸の優れた作家を招聘する瀬戸市のアーティスト・イン・レジデンス事業です。

招聘する作家は当館を拠点として、1か月以上にわたり研修生と同じ工房を使用して制作を行います。国内外の第一線で活躍する作家と共に活動し交流を深めることにより、陶芸・ガラス工芸に対する新たな展望が生まれ、国際感覚豊かな作品表現と展開を目指すことができます。



研修修了後



研修修了後は、市内外で貸工房を利用し個人で作家活動を継続する例、陶磁器・ガラス関係の企業や工房に就職する例など様々な実績が報告されています。その一方で、当館では修了生を対象とした工房設備のレンタルを導入しており、制作環境の提供も行っています。また瀬戸市では、「ツクリテ創業支援事業」を立ち上げ、ものづくりを目指す作家を対象に市内での創業や事業相談を受け付け、工房の家賃や改修費の補助など様々な支援策を提供しています。

設備

2年間の創作活動拠点となる『工房棟』は、1階から4階まで陶芸・ガラス工芸分野における設備が整っています。各工房にはそれぞれスタッフが常駐しており、皆さんの研修期間における制作や作家活動のサポートを行っています。

■ 陶芸工房



電動ロクロ、土練機（真空・常圧）、セラローラー

- ・研修生には、それぞれ作業机や電動ロクロ、ストックスペースなどが割り振られています。
- ・空調設備も整い、快適な空間で制作ができます。

■ ガラス工房



ガラス溶解炉（クローズドポッド）、グローリーホール、ベンチ、徐冷炉、電気炉（8kw、10kw、22kw:各1基）、ガレージ、小割切断機、平盤研磨機、縦軸研磨機、ベルトサンダー、ウォーターサンダー、サンドブラスター、アーク溶接機など

- ・グローリーホール、作業用ベンチは各3基あり、同時に作業が可能です。
- ・電気炉は吹き場と同じ室内にあり、ピックアップや徐冷にも使用ができます。

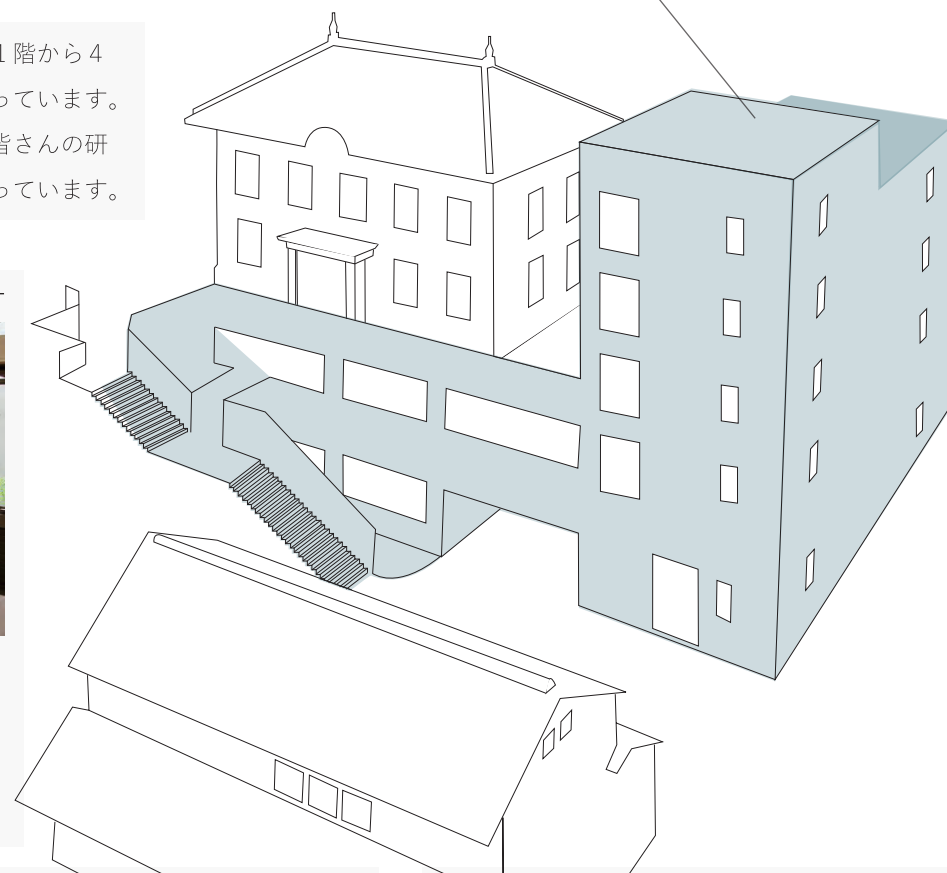
■ 窯場



ガス窯（2.0㎡：1基、0.5㎡：1基）、電気窯（10kw：2基、15kw：1基）など

- ・2.0㎡のガス窯があり、大物の焼成も可能です。
- ・ガス窯焼成時には、研修時間の夜間延長を認めています。

Studio Building



■ 施種室



ポットミル、スタンパーミル、攪拌機など

- ・施釉の他、木工、原型制作など様々な作業に使用できます。

■ 石膏室



真空攪拌機、石膏ロクロなど

■ 吹付付室

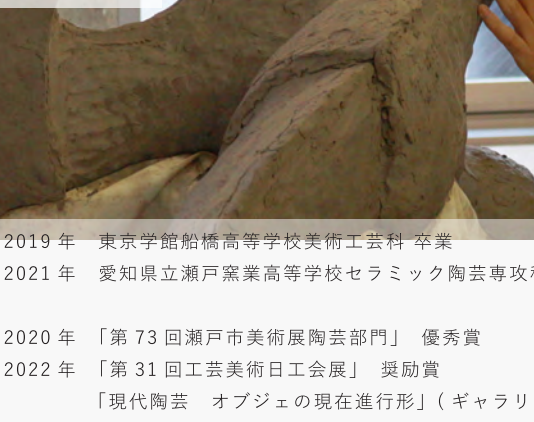
吹付用スプレーガン、吸引機、コンプレッサー

現役研修生の声

■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
瀬戸窯業高等学校専攻科で2年間、陶芸の基礎を学び、作家として独立する準備段階として新世紀工芸館での研修を選択しました。学校とはまた違う自由な制作環境に身を置くことで、自分自身の作品表現を深めたいと思ったのがきっかけです。
■ 新世紀工芸館での研修はどうですか。
新世紀工芸館では作品と向き合って制作をしている時間以外にも、出展の機会や自分と同じ目標を持って活動に取り組む研修生、そして第一線で活動する作家さんやギャラリ関係者など多くの人の出会いがあります。様々な出会いから、これから作家としてやっていく上で必要な視点を得ることができると感じています。
■ 今後の展望ををきかせてください。
修了後は瀬戸市内に工房を借りて、作家として作品の発表活動を行っていきたくと考えています。



■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
2019年 東京学館船橋高等学校美術工芸科 卒業
2021年 愛知県立瀬戸窯業高等学校セラミック陶芸専攻科 修了



2020年 「第73回瀬戸市美術展陶芸部門」 優秀賞
2022年 「第31回工芸美術日工会展」 奨励賞
「現代陶芸 オブジェの現在進行形」（ギャラリー・数寄 / 愛知）



2020年 秋田公立美術大学 ものづくりデザイン専攻 卒業
2022年 東京藝術大学大学院 美術研究科 工芸専攻 ガラス造形研究分野 修了

2020年 秋田公立美術大学研究作品展 きらり早瀬眞理子奨励賞
2021年 「A-TOM ART AWARD」 特別賞
2021年 「Stanislav Libensky award」 特別審査員賞



■ 新世紀工芸館での研修を決めた理由。
粘土とガラスの両方を使って制作をしていたので、陶芸の設備とガラスの設備がそろっている施設を探していました。その中でも新世紀工芸館はより制限なく、どちらの設備も使用できそうだったので、自分の制作に合っていると思い新世紀工芸館に決めました。
■ 入館前のイメージ通り陶芸とガラス両方の設備を使わせてもらえて、自由な制作ができています。溶解炉や電気炉といった設備についてもその構造や管理方法など詳しくスタッフから説明してもらっているので、将来もうれしいです。
■ 今後の展望ををきかせてください。
当館での研修を考えている方へ。
カリキュラムが無く自由な分、2年間の目的・目標をしっかりと持つことが重要だと思います。

様々な視点から
素材の可能性を探り、
自己の表現を深める。

小人数ならではの環境で
工房設備をフルに活用し、
技術に磨きをかける。